

“静かな革命”をともに： 変化と歩む病院薬剤師の力

佐賀県病院薬剤師会会長
佐賀大学医学部附属病院 薬剤部長・副病院長（経営企画）
島ノ江千里 Chisato SHIMANOE



秋風が心地よく吹き抜け、木々が少しずつ色づき始める季節となりました。病院の窓から見える空にも、どこか澄んだ静けさが漂い、季節の深まりを感じる今日この頃、皆様におかれましては、日々の業務に真摯に取り組まれていることと拝察致します。「薬剤師の仕事は、どこまで広がるのだろうか？」そんな問いを、近年とみに感じるようになりました。調剤や服薬指導にとどまらず、チーム医療、感染対策、医薬品の適正使用、さらには病院経営まで。私たち病院薬剤師の役割は、今まさに広がり、変化し続けています。

私は現在、佐賀県病院薬剤師会の会長を務めておりますが、これまで薬局、大学での研究・教育、薬剤部長、病院執行部という多様な立場で薬剤師としての仕事に携わってきました。そのなかで強く感じてきたのは、「薬剤師の力は、既存の枠組みにとらわれない時にこそ、真に発揮される」ということです。会員の皆様も、日々の業務に加え、チーム医療の一員として診療の質を高める役割を担っておられることと思います。医療が複雑化するなかで、薬剤師の専門性は“補助的”ではなく、“中核的”なものへと進化しています。こうした変化に応えるには、私たち自身も柔軟な姿勢をもち続けることが求められます。「薬剤師とはこうあるべき」という固定観念を手放し、現場で本当に必要とされることに主体的に応じていくこと。それが、これからの薬剤師に必要な姿勢ではないかと考えますし、専門性は、他職種との連携を通じてこそ広がり、深まっていくものだとは信じています。

私自身、薬剤部のチームづくりに力を注いできましたが、薬剤部だけでなく、病院全体、さらには地域もまた、それぞれが1つのチームであると考えています。信頼し合い、対等に連携しながら、患者にとって最善の医療を提供する。そのためには、枠を超えて行動する姿勢が欠かせません。そして、変化に対応する力を育むには、学び続けることが不可欠です。リカレント教育は、知識の更新だけでなく、自らの専門性を再定義する営みでもあります。挑戦を歓迎し、失敗を許容する風土、互いの違いを尊重し合える文化が、薬剤師の可能性をさらに広げてくれるはずです。特に、若手の病院薬剤師の方々には、「調整力」と「サバイバル力」を意識していただきたいと思います。前者は多様な立場の間に立ち、対話を通じて最適な道を見出す力。後者は難しい局面でも前向きに学び、しなやかに対応していく力であり、薬剤師が力を発揮するフィールドが広がります。

最後に、病院薬剤師会という組織は、会員の皆様がともに支え合いながら、より良い医療の実現に向けて歩んでいく、“静かな革命”を育む場でありたいと願っています。